

伊勢物語

検印

芥川

語句・文法を確認しよう

知識・技能

1 次の——線部の語句の本文中での意味を答えなさい。

- ①年を経てよばひわたりけるを、(54・2)
- ②神さへいといみじう鳴り、(54・8)
- ③雨もいたう降りければ、(54・9)
- ④はや夜も明けなむ (55・1)
- ⑤率て来し女もなし。(55・6)
- ⑥泣けどもかひなし。(55・6)

2 次の——線部の動詞について、a 終止形をひらがなで示し、b 活用の種類、c 活用形を答えなさい。

- ①年を経て (54・2)
a [] b [] c []
活用 [] 形 []
- ②いと暗きに来けり。(54・3)
a [] b [] c []
活用 [] 形 []
- ③率て行きければ、(54・4)
a [] b [] c []
活用 [] 形 []

文章の理解を深めよう

思考力判断力表現力

1 「女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、」(54・1)とは、どういうことか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 男は、ある女に熱心に言い寄っていたが、他の男と結婚しそろうだったため、とうとう強引に女を奪い取った。
- イ 男は、妻にしたい相手を決めることができず何年も探し求めていたが、ようやく心にかなう女を見つけ出した。
- ウ 男は、女が手に入れられそうもなかった物を長年かけて探し、どうにか盗み出して、女と一緒に逃げた。
- エ 男は、自分の釣り合わない高貴な女に長年言い寄っていたが、ようやくその女を連れ出すことができた。

2 「神鳴る騒ぎにえ聞かざりけり。」(55・4)を、誰が、何を、どうしたかがわかるように口語訳しなさい。

[]

3 「白玉か……」の歌(55・8)には、どのような心情がこめられているか。適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 女と一緒にいられたときのできごとをなつかしく思い出し、恋の余韻に浸ることをせめてもの慰めに行っている。
- イ 女とともに逃げていたときのことを思いながら、自分だけが生き残ってしまったという現実を嘆いている。

- ④戸口にをり、(55・1)
a [] b [] c []
活用 [] 形 []

3 次の——線部の助動詞について、ここでの意味をそれぞれあとの中から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

- ①昔、男ありけり。(54・1)
 - ②神鳴る騒ぎにえ聞かざりけり。(55・4)
 - ③率て来し女もなし。(55・6)
- ア 打消 イ 推量 ウ 過去
エ 尊敬 オ 断定 カ 意志

[] [] []

4 次の——線部の文法的な説明として適切なものをそれぞれあとの中から選び、記号で答えなさい。

- ①女のえ得まじかりけるを、(54・1)
 - ②草の上に置きたりける露を、(54・5)
 - ③白玉か何ぞと人の問ひし時 (55・8)
- ア 主格を表す格助詞
イ 連体修飾語を作る格助詞
ウ 同格を表す格助詞

[] [] []

ウ あれは真珠ですか何ですかという女の問いかけに答える余裕すらなかった自分の未熟さを、深く恥じ入っている。

エ 真珠のような女を手に入れたいと願ったが、自分にとっては露のようなはかない幸せだったのだと諦めている。

[]

4 本文を読んだ生徒たちが意見を述べた。内容に即した意見を述べている生徒をあとの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- 生徒A：「男は、はげしい雷雨から自分の身を守るために蔵の奥に隠れて、女を戸口に立たせたね。だから女が鬼に襲われてしまったんだよ。」
- 生徒B：「男は、鬼の住む場所だと知っていたけれど、雷雨で仕方なく入ったんだ。警戒はしていたけれど、結局守りきれなかったんだね。」
- 生徒C：「男は、夜明けに鬼が女を食べているのを実際に目撃したけれど、恐怖で動けなかったんだ。じだんだを踏んだのは、助けられなかった不甲斐なさからだね。」
- 生徒D：「男は、女の問いに答えて自分も露と共に消えてしまえばよかったと詠んでいるね。女を失った悲しみを味わうくらいなら、死んだほうがましだったと思うているんだ。」

- ア 生徒A イ 生徒B
- ウ 生徒C エ 生徒D

[]

語句・文法を確認しよう

知識・技能

1 次の——線部の語句の本文中での意味を答えなさい。

①身を要なきものに思ひなして、(56・1)

②いとおもしろく咲きたり。(56・10)

③うつつにも夢にも人にあはぬなりけり(57・13)

④五月のつじもりに、(57・15)

2 次の——線部の動詞について、a終止形をひらがなで示し、b活用の種類、c活用形を答えなさい。

①昔、男ありけり。(56・1)

a [] b [] c [] 活用 [] 形 []

②唐衣きつつなれにし(57・1)

a [] b [] c [] 活用 [] 形 []

③はるばるきぬる(57・2)

a [] b [] c [] 活用 [] 形 []

文章の理解を深めよう

思考力判断力表現力

1 「八橋といふ所」(56・5)とあるが、この地名の由来を次のようにまとめるとき、空欄に入る適切な言葉を現代語で答えなさい。

川の流れが ① のようになっていて、橋を ② かけてあることから、八橋という。

① [] ② []

2 「唐衣……」(57・1)の歌にこめられた心情として適切なものの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 愛情の冷めた妻と離れて旅してきたことを、うれしく思っている。

イ 愛する妻と離れて旅してきたことを、つらく悲しく思っている。

ウ 都では全く出世できなかったことを、悔しく残念に思っている。

エ 都を捨てて旅してきたことを、出家のためのよい機会と思っ

ている。

オ 旅先で思いがけずつらいめに遭うということ。

カ 旅先で思いがけず知り合いの僧に会ったということ。

キ わけもなく遠い国まで旅してきたということ。

ク 当てもなく旅に出て暗い夜道をさまようということ。

3 次の——線部の助動詞について、ここでの意味をそれぞれあとの中から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

①京にはあらじ、(56・2)

②八橋といふ所に至りぬ。(56・5)

③言ひければ、詠める。(56・13)

④唐衣きつつなれにし(57・1)

⑤駿河なる宇津の山への(57・13)

⑥時知らぬ山は富士の嶺(58・1)

ア 過去 イ 打消

ウ 断定 エ 存在

オ 完了 カ 打消の意志

4 次の——線部を、助詞「ば」に注意して口語訳しなさい。

①……と言ひければ、詠める。(56・13)

②富士の山を見れば、……雪いと白う降りり。(57・15)

③名にし負はばいざこと問はむ(58・11)

ア 白い鳥のようにくちばしと脚とが赤く、鳴の大きさである

イ 白い鳥のくちばしと脚とが赤く、鳴は非常に大きさがある

ウ 白い鳥がくちばしと脚とが赤く、鳴のような大きさである

エ 白い鳥でくちばしと脚とが赤く、鳴のような大きさである鳥が

イ 今後、都に残してきた恋人に会えるかどうか心配する気持ち。

ウ 都に残してきた大切な人たちの心配し、いとしく思う気持ち。

エ 都に残してきた大切な人からの手紙を待ち遠しく思う気持ち。

オ 旅の果てに、運命の恋人と出会えることを期待する気持ち。

カ 今後、都に残してきた恋人に会えるかどうか心配する気持ち。

キ 今後、都に残してきた恋人に会えるかどうか心配する気持ち。

ク 今後、都に残してきた恋人に会えるかどうか心配する気持ち。

ク 暗い心情を抱き続けている。

ク 和歌の名手として各地で目にした情景を客観的に描写し、その

場の人々と共有することで、旅の記録を残そうとしている。

エ 和歌の名手として各地で目にした情景を客観的に描写し、その

場の人々と共有することで、旅の記録を残そうとしている。

エ 和歌の名手として各地で目にした情景を客観的に描写し、その

場の人々と共有することで、旅の記録を残そうとしている。

エ 和歌の名手として各地で目にした情景を客観的に描写し、その

場の人々と共有することで、旅の記録を残そうとしている。

エ 和歌の名手として各地で目にした情景を客観的に描写し、その

語句・文法を確認しよう

知識・技能

1 次の——線部の語句の本文中での意味を答えなさい。

①言ふかひなくてあらむやは(60・13)

②心にくくもつくりけれ、(61・6)

③心憂がりて行かずなりにけり。(61・7)

[] [] [] [] []

2 次の——線部の係助詞について、ここでの意味・用法をそれぞれあとの中から選び、記号で答えなさい。(同じ記号を何度使ってもよい。)

①親のあはすれども聞かでないありける。(60・3)

②君ならずして誰か上ぐべき(60・8)

③もろともに言ふかひなくてあらむやは(60・12)

④異心ありてかかるにやあらむと(61・2)

⑤初めこそ心にくくもつくりけれ、(61・6)

ア 強意 イ 主題の提示 ウ 疑問 エ 反語

[] [] [] [] []

文章の理解を深めよう

思考力判断力表現力

1 「筒井筒……」(60・5)の歌にこめられた気持ちとして適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幼い頃に一緒に遊んでいた相手が、大人になって美しく成長していることを期待する気持ち。

イ 会わないままに長い時間が過ぎてしまったので、相手の気持ちが離れたことを悔やむ気持ち。

ウ 一緒に遊んでいた頃とは違って自分はもう立派な大人になったということを伝える気持ち。

エ 結婚しようと約束していたのに、なかなか約束が果たせないことを相手にわびる気持ち。

[]

2 「君ならずして誰か上ぐべき」(60・8)の解釈として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あなたが大人にならないうちは私も大人になりません。

イ 私の髪上げをすることになっているのは、あなたです。

ウ 私が大人の女性となり結婚する相手はあなただけです。

エ あなたが来ないのなら、誰も私と結婚しないでしょ。

[]

3 「ついに本意の」とくあひにけり。」(60・9)とあるが、男の「本意」にあたる部分を本文中から抜き出ささい。

[]

6 「限りなくかなしと思ひて、」(61・5)とあるが、男がこのように思ったのはなぜか、説明しなさい。

[]

7 本文には、何度か大きな時間の飛躍がある。このような物語の構成がもつ効果として適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

新傾向

ア 時間の省略によって物語を短くし、登場人物の行動を客観的に示している。

イ 「高安」のエピソードを唐突に持ち出すことで、読者の驚きを演出している。

ウ 恋愛の道徳性について批判する意図を、時間の断絶を用いて明示している。

エ 男女の恋の進展について、過去と現在を対比することで哀感を深めている。

[]

8 『伊勢物語』と同じジャンルの作品として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 落窪物語

イ 栄花物語

ウ 平中物語

エ 宇治拾遺物語

[]

4 「異心ありてかかるにやあらむ」(61・2)とは、どういうことが適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 女は自分が浮気をしていることを知っているのに、知らないふりをしていただけなのではないかということ。

イ 女は自分が他の女のもとへ通うことを全く責めないが、実は不愉快に思っているのではないかということ。

ウ 女は自分が高安の郡に通い続けていることを、他の女と浮気していると誤解しているのではないかということ。

エ 女は他に心を寄せる相手がいるから、平気な顔をして自分を送り出しているのではないかということ。

[]

5 「風吹けば……」(61・4)の歌について、次の問いに答えなさい。

① a 掛詞を抜き出し、b 説明しなさい。

[] [] [] [] []

② a 序詞と、b 序詞が導く言葉を歌の中から抜き出しなさい。

[] [] [] [] []

③ 修辞法に注意して口語訳しなさい。

[] [] [] [] []

